

## 当院は、日本不整脈学会認定 不整脈専門医研修施設に認定されました。

2011 年秋に開始された不整脈専門医研修施設認定作業が日本不整脈学会にて行なわれ、当院も施設認定を受けました。今後も地域の不整脈治療に貢献したいと思います。

詳細は日本不整脈学会のサイトにて掲載されております。

<http://jhrrs.or.jp/specialty/facilities.html#osaka>

## 腹腔鏡下大腸切除術導入から 100 例に達しました。

腹腔鏡下大腸切除術は、お臍の上下約 1cm の傷と 5-10mm の数か所の孔から、電子カメラ（腹腔鏡）や手術器具を挿入して大腸の切除を行う手術です。従来の開腹手術とは異なり大きな手術創がありませんので、傷の痛みが少なく、術後の回復も早く、傷も数ヶ月経てばほとんど目立たなくなります。また、腹腔鏡の画像は鮮明で通常より拡大して見えますので、出血量も少なくリンパ節なども含めて確実な切除が可能です。しかし、その一方、高度な技術が要求され、ひとつ間違えば大きな合併症を引き起こす危険を伴っています。

当院では、金沢部長を中心に、京都大学消化器外科での研修、DVD などでの勉強会、動物を用いた実習などで慎重な準備を重ねた後、この分野の第一人者である福長洋介先生（がん研有明病院医長）に直接指導していただきながら、平成 21 年 9 月にこの手術を開始しました。当初は、比較的早期の大腸がん患者さんに限定していましたが、徐々に進行した患者さんにも適応を広げてゆき、最近では約半数の大腸がん患者さんに腹腔鏡下の手術を行なっています（図 1）。本年 2 月には 100 例に達しましたが、これまでに大きな合併症を経験することなく、出血量や創痛の軽減、早期回復など腹腔鏡のメリットが充分活かされた成績をあげています。これからも、地域の皆様のご信頼に答えられるよう、さらなる研鑽を重ねてまいります。

なお、当院では、大腸や胆嚢、虫垂切除以外にも、鼠径ヘルニア手術や肝切除術にも腹腔鏡を用いた手術を導入しています。また、胆嚢摘出術には、お臍の孔だけで行う単孔式手術も行っています。しかしながら、これらの手術は全ての患者さんに適応できるわけではありませんので、受診の際にはご相談下さい。

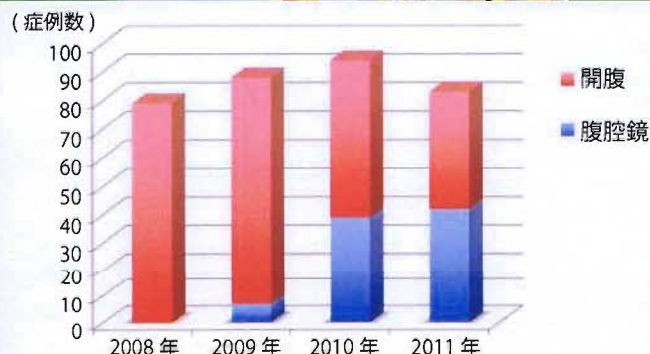


図 1：大腸がん切除症例数





## 第4回 東住吉がん診療連携懇話会

2011年12月3日(土) 第4回 東住吉がん診療連携懇話会が下記の内容で開催された。

### 【第一部】

司会：東住吉森本病院 肝胆膵内科部長 藪さこ恒夫先生

①「院内がん登録から見てくる当院におけるがん診療の特徴」

講師：東住吉森本病院 診療支援課 田中 さやか

②「緩和ケアチーム発足から半年間の歩みと今後の目標」

講師：東住吉森本病院緩和ケアチーム 緩和ケア認定看護師 江口 由紀



### 【第二部】

司会：東住吉森本病院 外科部長 金沢 源一先生

①「ESD 遺残病変に対する焼灼後に潰瘍形成と病変消失を認めた早期胃がんの1例」

講師：東住吉森本病院 内視鏡部 部長 仲川 浩一郎先生

②「当院における大腸がん治療の現状と『がん地域連携パス』」

講師：東住吉森本病院 副院長・がん診療センター長 田中 宏先生

「がん診療」全般にわたる地域連携を推進すべく発足された「がん診療連携懇話会」も今回で第4回になり、前回同様、多職種による発表があった。

がん診療センター長の田中副院長からは大腸がんの治療実績報告とともにがん診療地域連携パスの重要性を説明し、大阪府がん診療拠点病院としての当院の役割を話した。

## 第7回 関節リウマチ病診連携の会

2012年1月21日(土) 第7回 関節リウマチ病診連携の会が開催された。

当院、乾先生より「実臨床で気になる、関節リウマチの症例提示 及び 米国リウマチ学会 2011 の話題から」という演題で講演があった。当院で扱った IFX 治療中の RA 患者に生じた皮膚病変症例や、ACR 2008 から ACR 2012 更新の話題を recommendations を中心に解説した。これは B 型肝炎ウイルス感染リウマチ疾患患者への免疫抑制療法に関する提言の話題、リウマチ発症環境因子としての喫煙、歯周病との関係など、最近の関節リウマチ治療に関する興味深い話題であった。

また、天理よろず相談所病院の膠原病センター・センター長 八田先生の講演は「関節炎の診断と治療 ～関節リウマチから強直性脊椎炎まで～」であった。世界的な疾病であるリウマチ発症の原因とその検査方法から診断までを多面的に解説し、続いて血滑反応陰性について豊富な臨床経験に基づいた解説を拝聴した。

当日は、予想外の視聴者数が会場に集まり、盛況に終わった。



# 南大阪循環器疾患病診連携シンポジウム

2011年11月19日(土) 南大阪循環器疾患病診連携シンポジウム が開催された。

【特別講演Ⅰ】 座長：当院・院長・心臓血管センター長 瓦林孝彦先生

「結晶形成を介さない腎臓関連障害のリスクとしての尿酸」 ～シルニジピンの多面的作用を交えて～

講師：鳥取大学大学院医学系研究科 再生医療学分野 教授 久留 一郎先生

【総合討論Ⅰ】 「テーマ：無症候性高尿酸結晶は予防的に治療すべきか？」

コメンテーター： 東住吉森本病院 心臓血管センター・循環器内科 部長 坂上祐司先生

池淵クリニック 院長 池淵 元祥 先生

特別講演Ⅰにおいて、久留先生は、高血圧症について高尿酸血症がしばしば合併するという機序を説明し、尿酸値をコントロールすることにより心血管障害を始めとする様々な疾病リスクを改善できると話した。その治療についてはシルニジピンなどを使った薬物療法のアプローチを中心に解説。合同討論Ⅰでもコメンテーターの先生より日ごろ収集した臨床データに基づき高度な分析が提示され、活発な意見交換が行われた。

【特別講演Ⅱ】 座長：大阪府立急性期・総合医療センター 副院長 福並 正剛先生

「血管を標的とした高血圧治療におけるN型Ca拮抗薬の意義」

講師：東京女子医科大学 高血圧・内分泌内科 主任教授 市原 淳弘先生

【総合討論Ⅱ】 「テーマ：交感神経・RAAS系抑制をターゲットとした薬剤選択をどうすべきか？」

コメンテーター： 大阪府立急性期・総合医療センター 心臓内科 副部長 森田 孝先生

坂口医院 院長 坂口 好秀先生

特別講演Ⅱにおいて、市原先生は、生活習慣の乱れにより様々な疾患が静かに進行・拡大してゆく、“メタボリックドミノ”にフォーカスし、この無症状状態の患者をPWV(Pulse Wave Velocity: 脈波伝播速度)という指標を使って検索する方法を話した。(このことにより当該患者が抱える疾病の近未来リスクを予測できる。)上のセッションと同様にPWVやIMT(頸動脈内中膜肥厚度)のコントロールにはシルニジピンが有効であると解説。合同討論ⅡでもEvidenceに基づいたハイレベルな発表とコメントが提示され非常に有意義な内容であった。





# 中庭イルミネーション&クリスマスコンサート

2011年11月28日、当院中庭にイルミネーションを設置いたしました。

暗闇に美しく光を放つ毎年恒例の森本病院版クリスマスツリー、入院患者さんのみならず職員も携帯で写真を撮っていました。



その中庭を背景に12月20日、これもまた恒例のクリスマスコンサートを開催いたしました。

演奏は、大阪市立大学医学部オーケストラ部のみなさんに加え、クラシックに精通した当院スタッフや副院長も参加し、年末の夕暮れ時を華やかに彩りました。当日は多くの来場者があり最後の歌のコーナーでは大いに盛り上りました。



## 編集後記

広報室 M

今年も冬らしい日々が続き、一体この寒い中、猫などの小動物はどうやって過ごしているのだろうか?っと思っていました。

そんな凍てつくある日の夜、帰宅途中、歩いていますと、1匹の野良猫がニャーっとなついてきて、あまりに可愛らしいのでよしよしと撫でてやりましたら意外に暖かい!! (まあ、全身毛皮ですもんね。) これなら大阪程度の寒さには耐えられるなっと思いました。

連れて帰ってやりたいのは山々でしたが、あいにくペット禁止の住宅事情でもありまして、またここで会おうと思います、とりあえず記念写真!!

